带状疱疹予防接種についての説明書

带状疱疹とは

带状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。带状疱疹は、70歳代で発症する人が最も多くなっています。

带状疱疹ワクチンとは

带状疱疹ワクチンには、生ワクチン(阪大微研:乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」)、組換えワクチン(GSK社:シングリックス)の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なりますが、いずれのワクチンにも带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

	生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK社)
接種回数(接種方法)	1回(皮下に接種)	2回(筋肉内に接種)
接種スケジュール	—	通常2か月以上の間隔を置いて2回接種 ※病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある人等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。
接種できない人	病気や治療によって免疫が低下している人は接種不可	免疫の状態に関わらず接種可能
接種に注意が必要な人	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた人は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた人は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する人、抗凝固療法を実施されている人は注意が必要です。

その他に、接種前に明らかに発熱(37.5℃以上)がある人、重篤な急性疾患にかかっている人、それぞれの予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー(急性のアレルギー反応)を起こしたことがある人は、いずれのワクチンも接種できません。

また、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患のある人、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった人、けいれんを起こしたことがある人、免疫不全と診断されている人や、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人、带状疱疹ワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのある人は、いずれのワクチンについても接種に注意が必要です。

法律で定められた带状疱疹予防接種対象者

- ① 年度内に65歳を迎える人
- ② 接種日時点で60歳以上65歳未満の人で、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に障害があり日常生活がほとんど不可能な人
- ③ 令和7年度から令和11年度までの5年間の経過措置として、その年度内に70、75、80、85、90、95、100歳(※)となる人も対象となります。

※100歳以上の人については、令和7年度に限り全員対象となります。

注) ①・②・③に該当する人であっても、過去に带状疱疹の予防接種を受けたことがある人は対象外となりますが、予防接種が必要と医師が判断した場合には、接種を受けることができます。

予防接種は義務ではありません。ご本人が接種を希望する場合にのみ予防接種を行います。接種を受けるご本人に認知症等の症状があり、正確な意思の確認が難しい場合には、家族やかかりつけ医の協力を得てご本人の意思確認を行ってください。それでも意思確認ができない場合は、予防接種法に基づく予防接種を受けることはできません。また、意思確認はできるものの、身体的事情等で自署が難しい場合には、改めて意思確認を行った上で、家族等により代筆をしてください。

带状疱疹ワクチンの有効性

		生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK 社)
带状疱疹に対するワクチンの効果(報告)	接種後 1 年時点	6 割程度の予防効果	9 割以上の予防効果
	接種後 5 年時点	4 割程度の予防効果	9 割程度の予防効果
	接種後 10 年時点	—	7 割程度の予防効果

※合併症の一つである「带状疱疹後神経痛」に対するワクチンの効果は、接種後 3 年時点で、生ワクチンは 6 割程度、組換えワクチンは 9 割以上と報告されています。

带状疱疹ワクチンの安全性と副反応

ワクチンの接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショックやアナフィラキシーがみられることがあります。

主な副反応の発現割合	生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK 社)
70%以上	—	注射部位の疼痛
30%以上 70%未満	注射部位の発赤	注射部位の発赤、筋肉痛、疲労
10%以上 30%未満	注射部位のそう痒感・熱感・腫脹・疼痛・硬結	注射部位の腫脹、頭痛、悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上 10%未満	発疹、倦怠感	注射部位のそう痒感、倦怠感、全身疼痛

他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの带状疱疹ワクチンも、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、生ワクチン(阪大微研)については、他の生ワクチンと 27 日以上の間隔を置いて接種を受けてください。

予防接種を受けた後の注意事項

- 予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師(医療機関)とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- 接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分は清潔に保つようにし、注射した部位はこすらないようにしてください。
- 通常の生活をして問題ありませんが、当日の激しい運動や過度の飲酒は控えてください。
- 接種後に気になる症状、副反応を疑う症状が現れた場合は、身近な医療機関(接種を実施した医療機関、かかりつけ医等)に相談してください。

予防接種を受けない場合

接種医の説明を十分に聞いた上でご本人が接種を希望しない場合、家族やかかりつけ医の協力を得てもご本人の意思の確認ができなかったため接種をしなかった場合、当日の身体状況等により接種をしなかった場合等においては、その後、带状疱疹に罹患、あるいは罹患した事による重症化、死亡が発生しても担当した医師にその責任を求めることはできません。

予防接種健康被害救済制度とは

予防接種では健康被害(病気になったり後遺症が残ったりすること)が起こることがあります。極めて稀ではあるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。带状疱疹の予防接種(定期接種)によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済(医療費・障害年金等の給付)が受けられます。申請に必要な手続きなどについては、下記までお問い合わせください。

《お問い合わせ》 宇部市健康増進課(宇部市保健センター) TEL 31-1777 FAX 35-6533